

「アシタバ」は、本当に明日になったら生えるのか？

御蔵島村立御蔵島小学校

3年 大森礼衣 加藤七海 黒田姫鈴 広瀬詩真 廣瀬帆南 西川勇之介

1 研究の動機

私たちが暮らす御蔵島では、アシタバは身近な場所にたくさん生えているので、摘んで天ぷらやおひたしなどにしてよく食べている。名前の由来は「摘んでも、明日にはまた生えているから」と聞いたことはあったが、「本当に明日になったらまた生えるのか」が気になったので、実験、観察をしてみることにした。

2 予想

・手で摘んでから、1~3日後には同じ場所に生えているのではないかな。

3 研究の方法、結果

・学校の校舎脇に生えているアシタバを A~J の10か所で摘んで、ビニールテープで印を付けて観察することにした。

実験① (2025年5月15日)

いつも食べている大きさぐらいに成長した茎を手で摘む。

【結果】1週間待っても全然生えてこなかった。摘んだところの茎の切り口が黄色くなっていた。



【考察】取り方が悪かったのかと考えて、はさみで切ることにした。

実験② (2025年5月21日)

はさみで切り、切り口をきれいにしてみる。

【結果】実験①の様子と変わらず、1週間待っても全然生えてこなかった。

【考察】観察していると、1週間前にはなかった新芽がたくさん生えていることに気付いた。

切った所からまた生えてくるのではなく、摘んでもすぐに別の新芽が生えてくるのではないかと考えた。

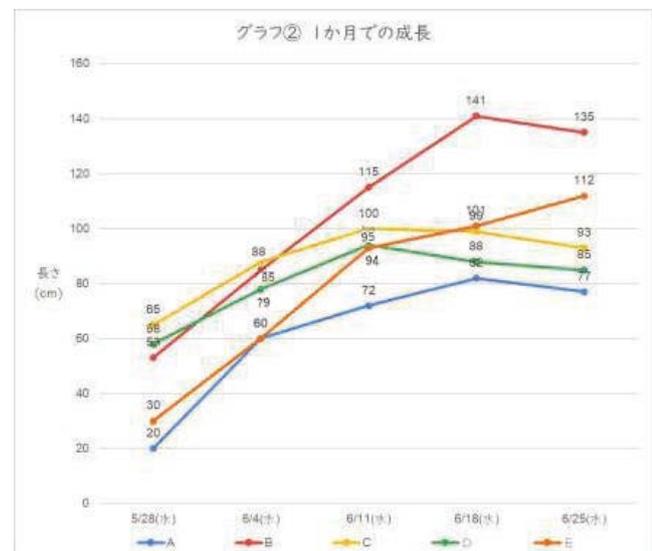
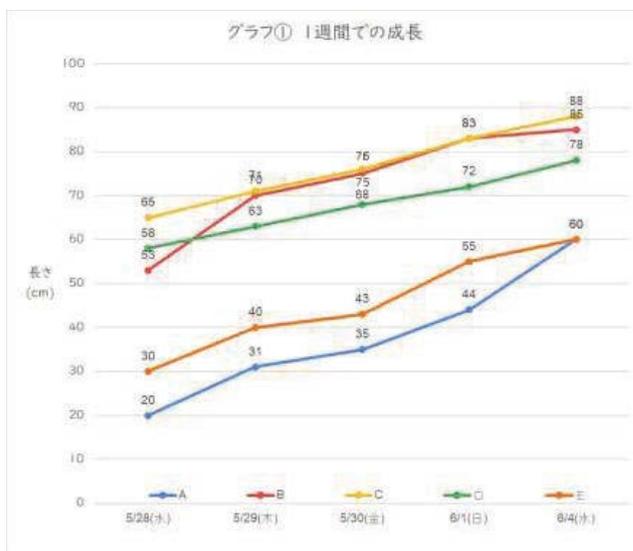
実験③ (2025年5月28日~6月25日)

新芽の長さ(新芽の茎の根元から葉の先まで)を測り、どれくらい成長するのか調べる。

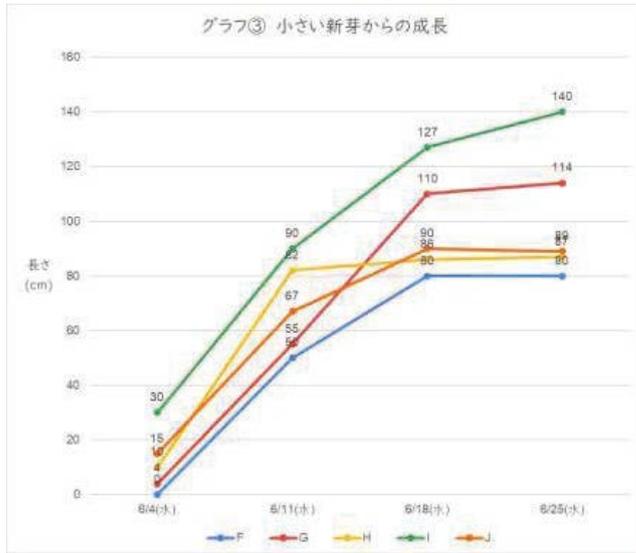
【結果】下のグラフ、表の通りに成長した。

・グラフ①、②は少し成長した新芽から観察を始めたものの結果

観察開始時の新芽の長さ→A(20cm)、B(53cm)、C(65cm)、D(58cm)、E(30cm)



・グラフ③はより小さな状態の新芽から観察を始めたものの結果
 観察開始時の新芽の長さ→F(0cm)、G(4cm)、H(10cm)、I(30cm)、J(15cm)



観察している様子



E 30cm (実験③開始時)



E 60cm (1週間後の様子)



F 0cm (茎から新芽が出たところ)

【考察】新芽から、2週間で約100cm近くまで成長することが分かった。特に初めの1週間で約50~60cmも成長していた。また、新芽の頃は1日に10cm以上も成長するものもあった。しかし、新芽から3週間後には伸びる幅が小さくなり、大体100cm前後で伸びなくなるものが多かった。

4 分かったこと

- ・アスタバはとても成長するのが早いということ。
- ・元々生えている太い茎の間から、新芽が伸びてくること。
- ・約1週間で、葉が柔らかくて食べ頃の50cmぐらいの大きさになること。

5 研究のまとめ

- ・アスタバの名前の由来は、「摘んでも、明日にはまた生えているから」とは言われているが、摘んだ茎と同じ場所から再生するのではないことが分かった。今回の実験で分かったようにアスタバは成長するのが早いので、食べ頃の葉を摘んでも、新芽が生えてすぐに食べ頃の大きさに成長するからそのように言われているのではないかと考えた。

6 感想

- ・実験をして、新芽が小さい時にはどんどん伸びるのがすごいと思った。1日でだいたい10cm以上も伸びたので驚いた。
- ・今回の実験を通して、初めてアスタバの花を見られ、アスタバについてもよく知ることができたのでとてもよかった。
- ・アスタバについて調べるために、島でアスタバを栽培していたおじいさんにも話を聞くことができた。アスタバの茎を切った時に出る黄色の液体には「カルコン」という成分が含まれていて抗がん作用があることや、栄養豊富なことなども教えてもらうことができてよかった。
- ・アスタバに花があると知ってびっくりした。いつも何も知らなくて採ったり料理していたりしたから、次からは考えて採りたい。
- ・アスタバの新芽が出る時には、茎から割ったように出てくることを知って驚いた。
- ・アスタバは夏にも食べられるけれど、夏過ぎにはアスタバの花がたくさん咲いていることが分かった。

7 参考文献

- ・馬場 きみ江 1995年「ガン・血栓を防ぎ、抗エイズ作用もある 健康野菜あしたば」チクマ秀版社
- ・広瀬 節良 2024年「御蔵雑記」イシダ印刷